

# 『アフリカの叢智 地球に、もしも“アフリカ”がなかったなら』

## プロジェクトの概要

日本の若者がアフリカで活動する NGO、在日アフリカ人留学生と共に、アフリカの課題、歴史、そして人々が守ってきた叢智(民話・神話など)を学び、議論する中で、21世紀に生きる私たちが持つべきアフリカのイメージ、アフリカと世界の関係について提言する。

### ：アフリカ民話朗読団 ～アフリカの叢智(本質)を知り、アフリカを友とするために～

【概要】日本人の若者と在日アフリカ人留学生が協力をして、アフリカの叢智が凝縮されている『民話・神話』を、全国各地の小・中学校(10校予定)に紹介するため巡業を行う。

民話朗読団が巡業する各校には、アフリカ各国の学校(パートナー)を紹介し、相互交流による参加型学習を行う。生徒は、総合学習の時間で、対応する国にある文化(音楽、食、民話など)、課題を調べ、『アフリカの叢智』ホームページに投稿していく。ホームページではナビゲーター(朗読団メンバー、アフリカに関わる NGO)が生徒の投稿した疑問・感想に応じていき、アフリカやパートナーに関する学習を深めていく。最終的には、アフリカの叢智が失われることのない様、その国にある民話・神話の紙芝居を作成し、パートナーへ手紙やビデオレターと共に寄贈し、交流のきっかけとする。

愛・地球博終了間際には、巡業先の生徒代表10名が集い、『アフリカの叢智サミット～小学生が感じた！中学生が語った！私が想うあふりか～』を開催。自分たちの学習したことをもとに、それ以前のアフリカに対するイメージ、学習後のイメージを分かち合い、『私たちのアフリカ像』を取りまとめ世界に提案する。あわせて、子ども兵問題を中心とした、アフリカの子どもたちが抱える課題について『今、私たちにできること』を小・中学生たちが考え、その実行を世界中の子どもたちに呼びかける。

### ：地球に、もしも“アフリカ”がなかったなら ～他者だったアフリカ。友としてのアフリカ～

【概要】『地球に、もしも“アフリカ”がなかったなら・・・』で続くいくつかの質問を通じて、逆説的にアフリカ大陸の世界における価値、重要性、または可能性を再確認する。

質問対象者はアフリカ46カ国の在日大使館、在日アフリカ人、アフリカ研究者など。質問をするメンバーはアフリカ大陸に関心を示す日本人大学生。

回答結果を踏まえて、『地球に、もしも“アフリカ”がなかったなら』という場面設定の下、映像資料を制作し、愛・地球博会期中に披露。現実社会との違いを浮き彫りにする。

そのことを通じて、アフリカ大陸が私たちの日常生活だけではなく、経済、音楽、文化などあらゆる面につながっていることを実感し、『他者だったアフリカから友人としてのアフリカ』へ、私たちの意識を変えていくきっかけをつくる。

## オープニングイベント

- 【内容】・セツア・ドラミニさん(ワールドピースユースサミット・アフリカ代表、ネルソン・マンデラ氏の孫)の「地球に、もしもアフリカがなかったなら」をテーマに講演。  
・アフリカに伝わる民話とプロジェクト概要を紙芝居形式で紹介